

## ふるさとCMやってみっぺ

代表者 3C 浦川 岳斗

指導者 渡邊 一郎

## はじめに

今回このかづの学で取り上げたテーマ『ふるさとCMやってみっぺ』については、十和田高校で掲げたテーマ『規律・熟考・表現』をうけ、商業分野の中でテーマが達成できるものとして、『表現』を『発信』に置き換え鹿角の魅力広報について取り組んでみることにした。

## I テーマ設定の理由

今年度「ふるさと教育かづの学」の実施方法が大きく変わり、商業・農業・工業・文化の四分野に大きな枠組みをし、各分野の中でそれぞれ研究テーマを持たせ、商業の視点から研究を深めていくということで、情報を流通するという観点から『表現』＝『発信』に絞った題材を考え設定することにした。そこで候補にあげたのが秋田朝日放送主催(特別協賛秋田銀行)のふるさと手づくりCM大賞に参加してみることでした。ところが題材を決定した時点では、参加申し込みの締め切り日が過ぎてしまっていました。そこで鹿角市役所産業活力課観光交流班の高橋さんにお願ひしてみたところ、十和田高校以外には参加希望者がいなく鹿角市としても是非に参加して欲しいとの快諾があり、鹿角市の代表として活動していくことになり、CM制作を通して発信するという課題に挑戦してみることにしました。



## II 実施計画

## 1 オリエンテーション

- (1) 学習テーマ(目的)の確認と役割分担
- (2) 学習の方向性(題材)の構想

- 2 班編成 & 活動計画(グループ別)
- 3 基本学習・資料収集・基本設計
- 4 グループ別構想の確認
- 5 制作(題材の収集と撮影・編集)
- 6 CM審査会への出席
- 7 学内発表

## III 実施内容

## 1 オリエンテーション . . . . .

## 学習テーマと方向性の確認や役割分担・題材の構想

今回は自分達の手で『鹿角の魅力を発信していく』という大きなテーマでしたが、具体的にどんな方法で魅力を発信できるのか、どこに向かってCMを発信していくのかなど、先の見えなくなりそうな領域に研究テーマを設定してしまった感がありました。特に『何について』の部分を決める段階ではなかなか主テーマが絞りきれず、相当な時間を割いてしまった感があります。最終的に大きな挑戦になりましたが、公共のTV局(秋田朝日放送)で実施している第15回あきたふるさと手づくりCM大賞に参加し、鹿角について再確認してみるという目標を決定し進めることにしました。



## 2 班編成と活動計画の立案

今年は、2年生4名と3年生7名の計11名で取り組むことになりましたが、取り組んでみたいテーマが2年生と3年生では異なり、2年生のグループと3年生の2グループという形に分かれてベースのアイデアを持ち寄り、最終的にコラボ作品を作ってみる方式ではじめることにしました。

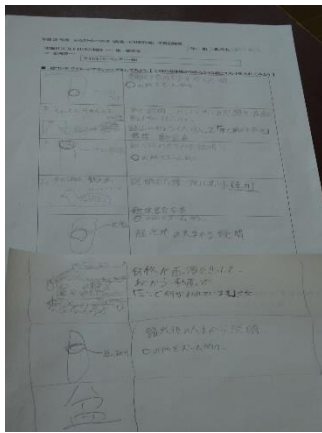


3年生にとって、夏休みから秋口までは進路活動で結構時間を割かれ、思うように進みませんでした。そんなこともあり、みんなで集まって経過確認をする時間を設けられ

ずに進んでしまい、2学期が始まったら撮影し始める予定が大きくずれ込んでしまいました。計画では各グループごとに『知ってもらいたい鹿角』というテーマでCMに必要なと思われる題材をソースネタとして取り集めておく筈であったが、各グループでの活動があまり進行できていなかった。

### 3 基本学習・資料収集・基本設計

各グループでの活動計画がイメージできたところで、CMを制作するのに必要な準備や手順などについても再度確認することとし、ネットの中から制作に関する情報を集め、制作する過程でやるべきことや自分たちの進行計画を見直すこととした。



この過程で最も重要視する内容とされたのが進行計画と作品の場面構成の緻密さであった。最終形のイメージ内容や全体の流れを確認するために、まずは絵コンテを作成しながら全体のストーリーや完成のイメージ確認に取り掛かった。

### 4 グループ別構想の確認

各グループごとに基本設計ができ、絵コンテによって作品の全体像が決まったところで、それぞれの仕上がりイメージをどのような形でコラボし、一つの作品として仕上げていくのかを決定する時間を設けた。話し合いの中では「まだまだ知られていない鹿角の魅力」をCMにして紹介しようだったが、学年間の連携が上手くいかず、2年生が少し出遅れてしまいどの流れで全体を構成していったら一つの作品として仕上がるかを詰めるに至れなかった。



### 5 制作（題材の収集と撮影・編集）

具体的な制作に取り掛かるのが遅れ、あまり知られていない魅力ある鹿角の題材を集めるのが難しくなってきた。… CM作品を審査会に提出する締切日が迫っており編集する時間と日程を考えたときに材料集めに時間がかかることが判明し、急に路線を変更せざる終えなくなりました。そこで誰もが知っている、鹿角を代表する題材を使いCM制作の再構築をし直す事にした。そこで上げられたのが文化財としての①毛馬内盆踊り②花輪ばやし③尾去沢鉦山史跡を組み合わせた作品の完成を目指すことにした。

それ以前の段階では十和田湖や花輪市内、毛馬内地区なども候補に入っており、悪天候の中撮影

ポイントを探すべく、車酔いにもめげず題材集めの為に車に揺られながら時間を費やしていくという隠れたエピソード(苦労話)などもあった。

ただ一つ残念だったのは、実際に動き始めるのが遅くなってしまったのが原因で、毛馬内盆踊りや花輪ばやしの生の映像を取り貯めておけなかった事で、最終的な作品の厚みがイメージしていたものからかけ離れてしまったことです。加えて編集するための機材不足や30秒にまとめることの作業が以外に時間がかかり作品提出期間に追われるように仕上げを急ぐことになってしまった。(この間考査の為に時間も割かれていたものもある)

### 6 CM審査会への出席



色々なピンチを乗り越え、11月19日(日)秋田市の児童会館にてCM審査会に臨みました。その間、

細々とした提出書類であったり、CM作りの過程やパフォーマンスの為にメイキング撮影であったりと以外に制約制限が多く、一つの作品を完成させ審査してもらうまでには大変な時間と労力を必要とすることが身に沁みて学べました。今年度は全体的なレベルも上がっていたり、上位に来る作品を制作してくる処は常連チームの作品であったりと俄作りでの挑戦はそんなに甘くないと痛感しました。結果は参加賞でしたがいい経験になりました。

### 7 学内発表

12月9日(土)の午後4時から審査会の模様が放送され、一般への公開が解禁となり、かつの学公开发表会が最後のまとめの時間となりました。10分の中で苦労や経過、成果をまとめているうちに、何かを人に伝える事の難しさが学べた講座となりました。



## IV まとめと今後について

今回初めて公式のCMコンテストに出品してみ、精選された情報を見る人の記憶に残すためには、ユーチューバー的発想での物作りではなく、しっかりとした狙いを絞って戦略的に構成していかなければ、記憶の片隅にも残して貰えない事が学べた。一言でCMと言っているが、時間と労力を惜しんでは納得のいくものが作れないことも学べよい経験になりました。